

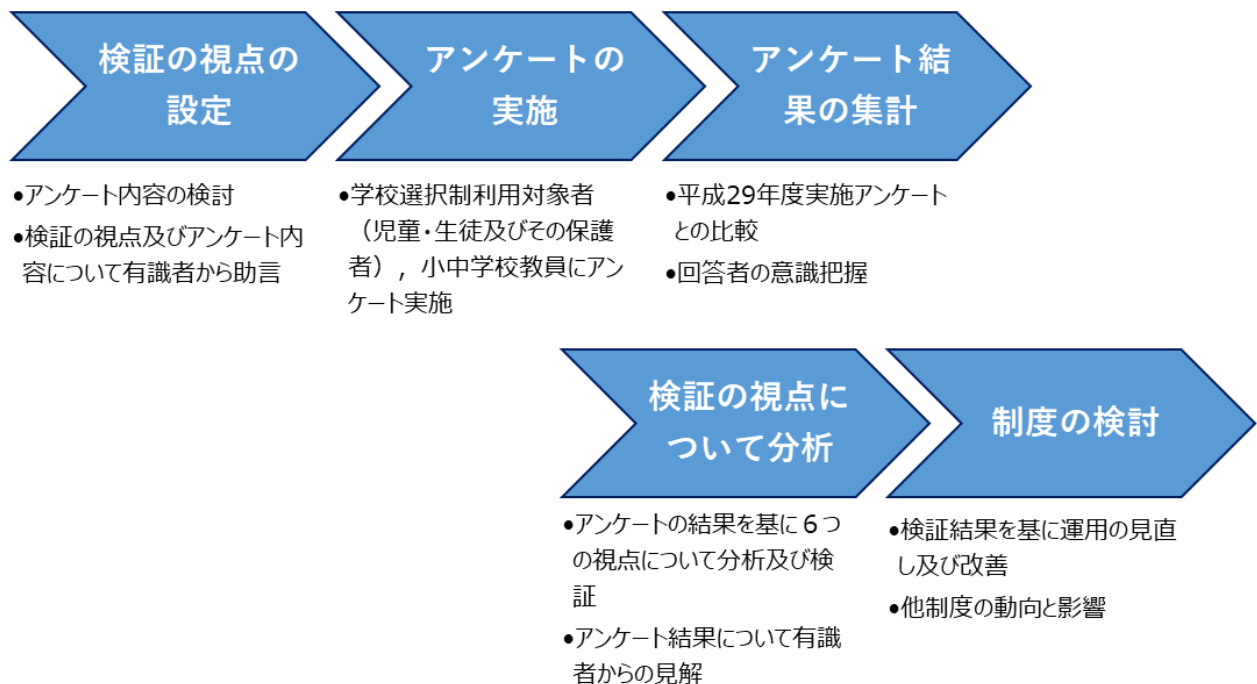
第 2 章 学校選択制の検証方法

1 検証の目的とプロセス

(1) 実施目的

本制度検証は、学校選択制実施による課題や、実施することにより期待される効果を検証の視点として設定し、それに基づいたアンケート調査を実施することで、その結果を踏まえ、設定した検証の視点について分析し、今後の制度運用の充実を図ることを目的としています。

(2) 実施プロセス



(3) アンケート調査の対象者

アンケート調査の対象者は、学校選択制を利用する機会を経験した中学校2年生の生徒とその保護者、これから学校選択制を利用する機会を迎える小学校5年生の児童とその保護者及び小学校・中学校の教員としました。

これらの検証を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する帝京大学の前島正明教授から、検証の視点やアンケート内容、結果について御意見・御助言をいただき、現行の中学校学校選択制について見解をいただきました。

2 検証の視点

検証の視点については下記のとおりです。

平成29年度にアンケートを実施した時の検証の視点に加え、「学校教育への関心や理解」や「生徒の通学の安全」に関する視点を新たに追加しています。

● 検証の視点

① 学校選択制は支持されているのか。

中学校学校選択制が児童・生徒及びその保護者、教員から支持されている制度なのかを検証します。

② 児童、保護者の学校教育への関心や理解が高まっているか。

中学校学校選択制を実施することによって、中学校への進学を検討する際、児童、保護者の学校教育への関心や理解が高まっているかを検証します。【新規追加】

③ 必要な情報が適宜適切に提供できているか。

風評等による選択がされていないか。

児童、保護者が学校を選択するにあたって、学校及び教育委員会による十分な情報提供ができているか、適正な情報による選択がなされているかを検証します。

④ 特色ある学校づくりの取組に繋がっているのか。

中学校学校選択制を実施することによって、学校ごとの特色を示すための取組に繋がっているか、またそれが学校にとって良い影響となっているかを検証します。

⑤ 学校と地域との連携が希薄になっていないか。

中学校学校選択制によって他学区の学校へ入学ができることから、地域との連携に影響があるか検証します。

⑥ 生徒の通学の安全については確保されているのか。

徒歩、もしくは公共交通機関を利用して、他学区からの通学となることから、その安全確保の状況について検証します。【新規追加】